

2025.9.11 (木)
第10回例会
(通算3819回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会長 荒井 剛
副会長 池田 一己
幹事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 講師例会「釧路公立大学ってどんな大学？～高等教育はインフラ～」(プログラム委員会)

次週例会 「情報集会報告会」(クラブ研修委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト ■ソングリーダー：桑原 岳広君
- 会員数 108 名
- ビジター
- ゲスト 釧路公立大学理事長 名塚 昭様

会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。本日の会長挨拶は、ロータリーソングをテーマにしたその第3弾として話したいと思います。第1弾は、ロータリーソングそのものが100年以上も前にシカゴで発祥したこと。第2弾は、日本でどう発展したのかを話しました。すると、残るは個別のクラブですね。釧路クラブに歌があるのだろうか、を調べました。調べたのですけれど、60年誌、50年誌を見ますと『釧路ロータリークラブ賛歌』という写真であるのです。歌詞を読みとったのがありますが楽譜が見つかりません。どういう曲なのかはまだ調べられていません。まず、歌詞だけを紹介します。

1番 南と北の大通り いざりとうた 幣舞橋 阿寒の山や たんちょう鶴 誇りも高く 集い合う おお釧路ロータリアン

2番 霧と海にはえている 貿易の夢 港町 黒のダイヤや原始林 誇りも潔く語り合う この漢字が分からなかったのです。

このような歌詞があります。私はこれをどうにか歌として再現できないかと思ひまして、最近はやりの生成AIを使ってみました。連日作って、50曲くらい作ったのです。その中から3曲を紹介させていただきます。かなり前の曲をイメージしました。「それらしく」

と指示して作ったのを聞いてください。

(1曲目を紹介)

これを、釧路は港町なので「漁師ふうにしてみよう」としたのが次です

(2曲目を紹介)

これまでは男性でしたが、女性のボーカルを入れました。私は、これがお気に入りです。

(3曲目を紹介)

ありがとうございました。

幹事報告 横田 英喜幹事

今週になって、事務局からメールが何通か行っていると思います。

ひとつめ、今週末の新入会員歓迎の夜間例会の出欠案内が遅れましたが、行っていると思います。出欠の返信がまだの方は出していただきますようお願いいたします。

ふたつめ、10月2日の職場訪問例会は、『和商市場』において勝手丼を皆さんで食べて、和商市場の歴史を知りましょう、という例会になっております。転勤族の方もせっかくの機会です、参加していただければと思います。

その翌週の10月9日は、ガバナー公式訪問例会になっております。12時30分から通常例会が行われますが、12時10分から写真撮影が行われますので皆さん、参加をよろしくお願ひいたします。

■本日のプログラム■

講師例会「釧路公立大学ってどんな大学?～高等教育はインフラ～」

プログラム委員会 藤井 敬亮委員長

プログラム委員の藤井です。本日は、元釧路市副市長で、現在は釧路公立大学理事長・名塚昭様に「釧路公立大学ってどんな大学?～高等教育はインフラ～」と題してご講演をいただきます。

名塚理事長、よろしくお願ひいたします。

釧路公立大学法人理事長・名塚 昭様



皆さん、こんにちは。ご紹介をいただきました名塚と申します。釧路公立大学法人の理事長ということになっております。一昨年の大学の

法人化に際して理事長を拝命いたしました。

大学というと普通は学長がいます。学長はよく分かるけど理事長ってなに、と子どもに聞かれて「説明がしにくい仕事に就かないで」と言われています。「紹介しなければいだけだよ」と言うのですが。学長は大学機関の長です。理事長というのは大学法人の責任者です。昨今は、理事長と聞くと悪いことをする人。「N大学の理事長ってそうだね。ロクな者がいないよね」と。私はそれとは一線を画したいなと思っているのですが、いかがなものでしょうか。

今日は、公立大学を紹介する機会をいただきました。ありがとうございます。

地域からそれなりに期待をされながら、あまり期待に応えていない大学ではないかなという声も聞こえて来たりします。さあ、いかがなものでしょうか。

恒例になりますが、沿革からご紹介してみたいと思います。

1982年に「釧路市長が地元で大学設置について検討を表明した」とあります。この前あたりに何があったのだろうか。ご存知の方がいらっしゃると思います。医大誘致を進めていて、見事に旭川に負けたのです。「9割まで釧路だ」と決まっていたのに、どこかのバイアスが働いて旭川に持って行かれたという悲しい歴史を持っているのです。やられればなしは辛いと当時の市長は思われたものと思います。

ならば、発想を変えて文科系の市立大学を作りたいと思われたのだと思います。当時の文部省に「市立大学を作りたいけど、どうすればいいのですか」と尋ねて行ったそうです。すると、「市長さん、寝言というのは寝て言いなさい。だいたい大学を持てる自治体というのは政令指定都市か県庁所在地の市はわかります

けど、一般市の釧路市が言われても、それは無理なことですね」と言われたそうです。

「そうは言っても、地理的に考えると県庁所在地と同じくらいのことをやっている地域なので、ぜひとも、ほしい」と。

その時に関係を持ったのが、釧路出身で自治省の事務次官、民主党政権時代の内閣官房に入られた瀧野欣彌さんと事務次官まで務められた石原信雄さんです。この方が動かれて、「指定都市でなくても県庁所在地でなくても、山梨県都留市に都留文科大学という大学があるではないか。市のレベルで作るのではなくて地域のみみんなで作って見たらどうだ。例として、岡山県新見市に女子の短期大学があるよ。でも4年の大学はない」というので、釧路市も管内の町村に頭を下げて「一緒に乗っていただきたい」となって、見事に認可されて1988年4月に開学をしています。今年で37年目を迎えております。

いま、話したことは資料には出ていなかったのですが、最近、北海道から刊行された『北海道現代史資料編』に生々しいやり取りが出ています。興味がある方はご覧いただきたいと思います。その資料を出す・出さないうで揉めておりましたが、「いま出さなければ未来永劫つぶれてしまう」と私が無理矢理「OK」を出しています。偉そうに「あれ、おれ」と言っている感じがありますが、そのような資料があります。

「釧路公立大学ってどんな大学?」、これを話してしまうと、これで終わります。単純な話で、経済学部の単科大学で、学科に経済学と経営学を持っています。時々、「ふたつの学科を持っているのに単科大学というの?」と。そうなのです。学部がひとつの所を単科大学と言うのですが、その中でもいろいろな勉強をしている所です。ふたつの学科なのですが、三つの固まりで勉強をしているとお考えいただきたいです。

コース制を敷いております。ひとつは「経済コース」、オーソドックスな経済学を学ぶものと受け止めてください。

経済学科の中にもうひとつ「地域社会コース」を2年前に作りました。釧路公立大学は経済の専門家ばかりではなくて、一般教養部門では相当優秀な先生たちがおります。その先生たちが語学ばかりを教えているのはもったいないことから、「専門のところは絡んでみませんか」ということで人文学とか自然科学を融合したコースを作って、ここの地域をフィールドにした勉強をしてみましよう、とやり始めました。成果は、まだ2年目ですからこれからに期待をいただきたいと思ひます。

「経営コース」は、会計学などを学ぶ通常のもので。この三つの固まりがあるとお考えいただきたいので

何人くらいの学生がいるのか。入学定員な300人で

す。学生総数が1300人。300かける4で1200なのでは。100人はどうしたのか。大学はこのようなものです。大学が好きで足踏みをしている学生もいるし、大学経営面から考えると、入学時に入ってくる人が多い時には1割アップでとるのです。300人定員のところ見事330人とれたその年は、「はあ、これで大学は一年間、なんとかなるぞ」と経営側は思うのです。1割アップでは文科省が文句を言って来ないという裏の約束事があるのです。今年は取り過ぎて、380人取っていて困ったなと思いつつも、まだ文句は聞こえてこないで「やった、やったー」という状態です。次は、様々な学びをしています。このような授業があることをご理解ください。「地域産業論」があります。これは、観光業、水産業、農業などこの地域の専門の人に来ていただいて授業を組み立てています。意外と学生からは人気があります。機会があれば皆さまにもお手伝いいただきたいです。次に誰をゲストスピーカーに連れてくるかで頭が痛いと思われがちですが、こういう授業を続けて行きたいと思っています。「公立大の学生はどこから来ているの？」です。地域で作上げた大学だから、釧路地域の人がたくさんいるのでしょ、と思いたくなるのですが、これは今年入った人たちです。釧路地域が52人、釧路地域を除く道内で171人、道外で149人。地域から入って来る人は1割とお考え下さい。9割の方をよそからカバーしている大学です。こう言うと、「あれ、公立大は地域の高等教育へのアクセスを確保するための第一目標を持っているのに、何をやっているのさ」と言われそうです。珍しい所としては、本州では岩手県から来る学生がずっと多いのです。どうしてなのでしょうかね。交通アクセスから考えると極めて不便。今だったら羽田に出て釧路に来るのがいいくらい。昔は漁船でこの辺りを行ったり来たりしていたのを考えると、そんなのも残っているのかと思いつつ、このような状態になっています。次は就職です。大学院を持っていない大学というのは、就職で勝負する以外に売物がないと言っているくらいです。がぜん、頑張るのです。「就職率は100パーセントに近いです」と言うのです。これは大学の人たちの自己満足ですが、いつも言われるのは「地域にどれだけ就職しているの？」「地域貢献度はどれくらい？」です。釧路地域には14パーセントとなっていますが、入ってくる学生は1割、釧路地域に定着する学生も1割、が本当のところ。多くの学生は、自分の出身地に、東北の学生は自分の出身地に帰って、公務員になったり金融機関に勤めたりしています。それ以外は、しっかりと首都圏と札幌圏のブラックホールに飲み込まれて行っています。分野は経済学部ですから金融保険とか公務員とかが比率を占めている傾向

があります。

学内施設はどうか。ロクなものがないから、こんな物しか出てきません。パークゴルフ場が周囲にありますよ。町内会の方も借りに来られています。図書館があります。一般の方にもご利用いただけますので、ぜひご利用いただきたいです。そんなに特徴はないのですが、大学の紀要に関しては全ての大学の紀要を備えております。論文を見ると紀要から引用されることがありますが、その引用元を確かめることができないので「読み飛ばしてしまえ」となるところですが、紀要の出典を探ることが可能な大学です。

ということは、論文を書こうとしたときの引用先の確認、最近ではネットでも確認できる仕組みもあって便利ですが、なかなか使い勝手が悪かったりします。ここからは大きな声で言えませんが、図書館でどんな本が学生に借りられているのだろう、などに興味があります。どこの大学もそうなのですが、ランキングで上位に来るのはコミックやアニメなのです。というくらい多様性に富んでいるものと受け止めていただきたいです。

ジンギスカンコーナーがあって焼肉をやっています。夏場はとても人気です。20歳以上の学生さんで教員がついていけばアルコールはオッケーです。私が10何年前の大学にいた時にはそのような縛りもなく、毎日のように学生はアルコールをあおっていたのですが、世の中は変わりましたね。大変なことになってきています。

大学祭です。都心部の大学祭になると「タレントの〇〇が来たぞ」となりますね。残念ながらそのような状況にはなりません、頑張っているつもりです。ただ、コロナの影響があって大学祭もやっと回復基調になってきました。大学祭は上級生が下級生にやり方を伝播することによって継続されていたものです。コロナが明けた時に「大学祭をやってみたら」と言うのと、「どうやってやるのですか」となったのです。事務局の職員が「大学祭はこうやってやるのだ」と手取り足取り教えて、大学の勉強以上に学んでもらわなければならないことがたくさんありました。

このようにしてやっていますが、今年は10月18～19日に行います。それなりの花火を15分くらいですが打ち上げます。ご近所の方で見に来られる方もおります。ただ、世の中は変わったもので、花火が打ち上がって3～4分もすると、大学の事務局の電話が鳴りっぱなしです。「うるさい」と。一緒に楽しんでくればいいのですが時代は変わってしまうもので、辛いところがあったりします。

面白くない話ですが「入るのにいくらかかるの？」です。入学金は32万円、授業料は国立大学の平均値と同じ金額でして57万円となっています。経営側として言いたかったことは、公立大学の経営は

学生納付金でいただくものと総務省から「学生一人当たりの単位費用で交付税に入れるよ」といただくものです。これは学部によってその金額が違います。社会科学系の学部は、基準の学生一人当たり 21 万 2000 円。補正係数があることはありますが 1.0 で、そのままです。

同じような都留文科大学は 2 倍近いお金をもらっているのです。経済学部の看板を下げた人文学部にするのと倍のお金が来るのでは、と単純に思いたくなります。人文学部になると語学の単位数が増えるので先生の数も増やさなければならず、うまく行かないのです。いま注目の理系にシフトしたならば、7 倍のお金がもらえます。ただ、バリバリの工学部をつくとインシャルコストがかかってしまいます。いま何がハヤリかという、データサイエンスですね。私たちの世代では「情報〇〇」でした。ちょっとしたパソコンを用意しておいて教員を育てて理系の看板を掲げているところのお金がとれるならば、となつてあちらこちらの大学で手を挙げています。そのあちらこちらの大学では「もう少し時間が経ってからだな」と挙げた手をゆっくりおろしています。教員の確保が困難になっているからです。

釧路公立大学の学生もお利巧さんですが、経営側もお利巧さんです。学生からもらうお金、総務省からもらうお金、これで賄っているのです。「だって、普通はそうでしょ」と言われますが、公立大学は全国に 100 いくつかありますが、設置する自治体からお金をもらわないで行っている公立大学は全国に 4 大学しかありません。なかなかの優等生ですが、当たり前と思わないでください。大学というのは、本当はお金がかかる所なのです。たまたまうまく行っているのです。

聞きたくないことでしょうか「入試のスタイル」です。私くらいの年代になると、国立 1 期・国立 2 期という呼び方は知っていますか。そのスタイルがどうなっているかです。

「一般入試」というのは、一発勝負の試験を受けて入るスタイルです。AO 入試も「推薦入試」の一部だとすると、いまは推薦入試のウェイトが高くなってきています。業界では年内入試、合格すれば年内合格と言われているものです。つまり今は、大学の一般入試で人生を変えようなどという時代ではなくて、推薦をもらって入試で楽しい正月を迎えようというのが一般的な流れになっています。

「私立だけではないの。公立大学もそうなの」。公立大学も同じような状況にあります。なぜかという「進学人口」が減っている中で、これを大学が奪い合っているのです。この推薦入試で優秀な学生をとっておかないと、一般入試の時には学生がいなかったりするのです。そのようなことがあって、私たちの大学も状況が変わってきています。

釧路公立大学は定員割れをしたことは一度もありません。志願倍率はいつも公立大学のトップクラスです。志願倍率だけをとると 10 倍くらいになります。どうしてか。これには変な日程があるのです。今でいうと前期日程と後期日程の間に、あまり聞いたことがないかもしれない「中期日程」を持っている学校があるのです。特権として与えられるのですが、どうして与えられるのかという開学認可が遅れた時には学生募集が大変だということから中期日程をもらえる時があるのです。学生にしてみると、「前期も受けられる・後期も受けられる・おまけに中期も受けられる」ということがあって、少なくとも 6～7 年前まではこの中期日程によって学生を確保してきたということがありました。

「今はどうなっていますか」です。前期日程はたくさん来ます。中期日程のころになると、学生はどこかに決まってい、いない状態です。この中期日程は特権でもなんでもなくなっています。ちなみに、この中期日程の特権を持っている公立大学は、先ほどの都留文化大学とか、高崎経済大学などがそうです。こちらもこれに並んでいたのですが、特権でも何でもなくなっています。

それで、どうしたのか。この中期日程に残っていないのなら、前期日程で来るのがないのだから、前期日程にウェイトを移して中期日程はバッサリ切ってしまう変更を行いました。こんどは学校推薦型の推薦入試で、管内に 27 人の枠を与えております。いつも 27 人を超える応募があって、ほとんどの皆さんを受け入れております。管内の方を増やしております。あとは管内枠だけではなく、「東北北海道枠」で根室、網走周辺まで増やしています。推薦入試でここまで増やしておいて、前期日程に臨まなければならない状況になっています。

前期日程にウェイトを置くと、学生をとるためにボーダーを下げざるを得ないのです。偏差値を下げざるを得ない。ベネッセだとか、河合塾の餌食にされて「釧路公立大学は名ばかりで、ボーダーが下がって危ないぞ」とされないためには推薦でガッポリとっておいて、前期でボーダーをキッチリ上げる大学戦略を取らざるを得ないのです。でも、地元とこの地域の人たちには「これで、なんとか」と動いております。

この地域の大学事情を話します。皆さまご存知の釧路短期大学が 4 月 14 日に募集停止を決定しました。

2027 年には閉学するとなります。ふたつの学科を持っていて幼稚園教諭や保育士、そして栄養士を輩出しております。入学定員が 100 人、総定数が 200 人。単純に言えば 18～20 歳の若い人たち、それも女性を中心にした人たちが他の地に教育アクセスの場を探さなければいけなくなりました。明らかに域外流失になります。

さてどうしようか、といま議論されています。「公立大学に短期大学部を作れないか」という声が聞こえて来ます。今日も釧路市に幼稚園・保育園の協議会が要請をしているそうです。日本国内で短期大学の仕組みの寿命がどのくらいあるのかと言われると、なんとも言われないところがあります。毎年のように店じまいしている所があるなかで「4大移行を考えなければならぬ」と言われていますが、直面しているのは「閉める」と言っているのです、ここの200人をなんとかしなければならぬのが地域の課題だと私も高等教育機関の一部にることから受け止めております。

暗い話ばかりしていてもなんですから、最近のことは、釧路公立大学と中央大学との間に包括連携協定を結びました。中央大学は「情報農学部」をつくるそうです。当初は「農園を持たない農学部をつくる」と言っていたようですが、多摩あたりで契約をしてやっているようです。その農学部の2学年の前期の学生がこの地域で学ぶためにやって来る予定になっております。これが「いい話だね」となっているようです。

私たちのほうからすると、大学院がない大学なので大学院進学への道筋がありそうです。それから、地方にいる学生にも国内留学で都会の味を味わってもらえるのです。総合大学なので理系人材を輩出しています。新学部を考えたりする際に仲よくしていることはいいことです。という下心しかないように聞こえるかもしれませんが、総合大学との連携を進めているところです。最後に、高等教育はインフラ。さて、何人くらいの学生がいるのかです。釧路公立大学は定員数で1200人。北海道教育大学が720人、釧路短期大学が200人、高専が800人で約3000人です。考えてみれば、定員確保ができていれば永久に年をとらない若者3000人がこの地域にずうっといるということです。

19歳から22歳までの若者は、住民基本台帳の7月で調べると約6000人。つまり、3000人は高等教育機関に絡んでいるのです。高等教育は教育インフラとよく言われます。

インフラはどうあるべきか。「あるインフラは維持すること。展開見通しのあるものは必ず展開させること」と言われています。大学や高等教育機関もそのように考えて行きたいと思っているところです。

つまらないお話にお付き合いいただきまして、大変ありがとうございました。

会長謝辞 荒井 剛会長

名塚理事長、ありがとうございました。

私も大学は中央大学でしたので、明るい話題として中央大学と包括協定を結んでいただいたことで、この先の釧路での明るい未来も垣間見えたと思います。釧路公立大学は、30数年で9300人の卒業生を出されていると思われましたので、今後も釧路のために理事長としてご活躍していただくことをご祈念申し上げまして、謝辞とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。